

平成28年度  
青森山田学園事業報告書

学校法人 青森山田学園

## I. 法人本部

### 1. 平成28年度の基本構想

#### (1) 教育理念や使命

社会の発展に寄与するための健全な心身の発達をはかるとともに、実践力に富む個性的な人間の育成を目指した。

実践的な能力を持つ人材の育成を通じて、地域社会に貢献するところが本学の掲げてきた精神であるが、原点に立ち返り、時代の変化を先取りしつつ新しい取組みに挑戦した。

#### (2) 組織改革計画

学園全体のガバナンス強化を踏まえ、学園の運営体制を確かなものに改革していくため、入学者確保・経費削減・人員削減に取り組んだ。

早期退職優遇制度の導入、スポーツ健康センター、情報教育センター、ITセンター、フリーカフェしんまちを設置するなど、管理・財政の運営体制の改革、地域との連携の充実や生涯学習活動の充実に努める組織改革を行った。

平成30年の100周年に向けて、記念事業の策定、ロゴマークの作成などを行った。

### 2. 教学に関する計画

#### (1) 志願者・入学者獲得の計画

園児、生徒、学生の入学者獲得に努め、大学は前年度より70名増、高校は42名増、中学校は5名増、専修学校は10名増となった。幼稚園・高校自動車専攻科の入学者獲得の対策が課題とされた。

また、国際教育センターが中心となり、諸国と連携をとり留学生確保の取り組みを行った。

#### (2) 教育内容の向上目標

校訓「誠実」「勤勉」「純潔」「明朗」の実現に努めるとともに、特に中高一貫・高大連携の魅力ある教育の継続展開を行った。また、教育環境の整備を計画的に行った。

#### (3) 教職員研修計画

教職員の資質向上のため、研修会の充実を図った。

特に職員においては、管理職としての意識を高めるための研修、学校法人職員としての仕事の進め方の研修など、他大学職員を講師として招聘するなど、さらなる資質向上に努めた。

## Ⅱ. 青森大学

### 1. 平成28年度の基本構想

#### (1) 教育理念と使命の達成へ向けて

青森大学は、地域社会に貢献し、「地域とともに生きる大学」として、学則第1条第3項に示す、次のような教育理念に基づき、教育研究活動及び社会貢献活動を行う。

- 1 青森の豊かな自然と文化の中で人間性と確かな教養を培い、社会に役立つ基礎学力、技術及び専門知識を身に付けさせるための実践的な教育を行う。
- 2 教員と学生の親密なコミュニケーションを通じて、教員が個々の学生の能力を十分に引き出すための親身な指導を行う。
- 3 大学の知的財産を活用することにより地域への社会貢献を行うとともに、地域との親密な交流を通じて地域から愛される大学となることを目指す。

本学の使命を達成するため、青森大学のガバナンスの改革・確立が不可欠である。このため平成24年度から「青森大学ルネッサンス」を進めており、「大学の運営」「教育研究」「社会貢献」にわたる様々な改革が行われている。改革を途切れなく進めていくため、上記3つの教育理念の実現のため、PDC Aサイクルをより厳密に構築し、教育内容及び方法の改善をさらに進め、大学の理念・方針について全ての教職員が十分に理解し、教職員が一致協力の態度と意欲を持って、大学の魅力の一層の向上を目指し、一体的な改革を進める。そのため、学長の権限と責任が果たされるよう、青森大学のガバナンスを確立するとともに、学校法人理事会と連携を取る必要がある。平成28年9月2日の法人理事会において決定された「青森山田学園ランドデザイン―第三次基本構想―」に、青森大学の課題と方向性について、学長の提唱する「青森大学ルネッサンス」の下、教育研究と大学運営の見直しを開始し、基本方針として「地域とともに生きる大学」及び「学生中心の大学」を掲げ、改革を進めていることを記述し、「就職に強い」「実践力が身に付く」「学生生活が充実し楽しい」という魅力ある青森大学ブランドイメージを打ち出し、戦略的な改革を進めることを掲げている。その戦略的改革の一つが、平成29年1月28日に青森山田学園と青森新都市病院を設置する雄心会との間で締結された基本契約に基づく「青森大学 脳と健康科学研究センター」の設立である。

本学は、平成29年度に次回の大学機関別認証評価を受ける予定となっている。この大学機関別認証評価は、4つの基準（使命・目的、学修と教授、経営・管理と財務、自己点検・評価）とその下位基準である22の基準項目などに基づいて、大学が高等教育機関として適合しているかについて評価される。本学では、大学自身の教育・研究及び社会貢献における質的向上のため、毎年、自己点検・評価報告書を作成し、大学改革の進捗状況などについてまとめてきた。また、平成29年3月27日には、公益財団法人日本高等評価機構事務局長兼評価研究部長伊藤敏弘氏を講師に迎え、「大学機関別認証評価受審のための勉強会」を開催し、認証評価に関するこれまでの準備状況を評価するとともに、これからの大学機関別認証評価受審のために必要とされる事項の確認などを行った。

青森大学は、これまで青森県、青森市、平内町等地方公共団体、青森商工会議所、青森

県中小企業家同友会等経済団体との連携や高等学校との連携、接続を拡充強化し、地域社会の再生・活性化の拠点としての役割を果たしてきた。その一環として、平成 29 年 2 月 24 日に、青森商工会議所に対し、本学の教育の在り方について説明を実施し、商工会議所からの好意的な反応をいただき、本学の教育、地域貢献に関する取組み及び就職支援などに関して評価されていることを確認した。また、国内外の大学との連携を引き続き推進している。

## (2) 組織改革計画

グランドデザインに基づき、経営学部、社会学部、ソフトウェア情報学部の 3 学部を統合・再編して 1 学部とする方向性は、経営学部の保健体育の教員免許に関わる判断などもあり、経営学部は、開学時から現在に至るまで、経営学士の学位を取得できる教育課程に基づいて、教育研究及び社会貢献を展開してきた。これに加え、スポーツビジネスの分野を対象とする教育研究を展開しつつ、情報システムや社会学などの関連分野についても、総合的に学ぶことができる学部となっている実態をより鮮明にするため、経営学部を「総合経営学部」に名称変更するための申請を行い、受理されたことから、平成 29 年度から、経営学部は全ての学年が総合経営学部となることとなった。

社会学部とソフトウェア情報学部については、統合することを視野に入れ、教育課程、必要教員数、取得学位などに関してさらに検討を加え、学生募集状況なども考慮しながら文部科学省と相談を継続しているところであるが、ソフトウェア情報学部及び社会学部における学生募集状況が非常に好調であったことから、グランドデザインに基づいた学部統合は、平成 31 年度以降に持ち越され、原則としてはグランドデザインに示されたように、社会学部とソフトウェア情報学部は統合する方向とするが、両学部の学生募集状況に鑑み、その時期などについては検討することとなった。しかし、平成 30 年度のカリキュラム改革については、学部統合を視野に入れ、3 学部間の専門共通科目を増やすことに加え、公務員プログラムや観光プログラムのように学部横断型のプログラムなどを設置する方向である。

薬学部については、これまで進めてきた教員の若返りが平成 28 年度までに概ね実現したことを受け、科目担当体制（特に基礎科目）など教育の体制、薬剤師国家試験対策などに関わる重要な体制と機能の改善のため、平成 28 年度より薬学教育センターを学部内に設置し、教務・学生課の教職員がこれに対応している。

学内委員会などを整理し、大学のより効率的な運営を行うために、学生募集委員会と就職委員会を廃止する方針とし、平成 28 年度からは、大学の入り口である学生募集と出口である就職支援に関して学長ガバナンスの下、それぞれ、学生募集タスクフォースとキャリア支援チームとして入試課及び就職課と連携しながら最適な学生募集及びキャリア支援が実施できる体制とした。引き続き、より効率的な大学運営を目指し、組織改革を進める予定であるが、大学機関別認証評価の基準に明記されている学内組織などについては、その構造・機能を効率的に展開できるよう、体制を整備して、基準・基準項目などに適合するように実施する。

事務局については、慣例的に続けられてきた従来の組織を変え、教務に関する業務は、

各学部を受け持つ事務担当を配置しつつ、教務事務を担当する事務員が全ての学部について十分な知識・技能を身に付けられるよう、SDの実施などを通して改善の努力を行っている。

また、事務局の業務すべてにおいて教職協働を生かし、学長ガバナンスの下で学生が求める教育研究の場がより効果的に構築されるよう、法人本部の「国際教育センター」は、大学の所属とした。今後、「青森山田学園情報教育センター」「青森山田学園スポーツ健康センター」との適切な連携を進める。

## 2. 教学に関する計画

### (1) 志願者・入学者獲得の計画

青森大学では学生募集に係る事務局と教員の連携を強化し、学長のリーダーシップの下で戦略的かつ効率的な学生募集を実施するために、平成28年2月に学生募集タスクフォース組織を設置した。この組織を効率的に運用するため、学生募集活動を9つの領域に分け、募集計画を立案、実行することとなった。学生募集タスクフォース会議は高校訪問等の終了後に実施し、それぞれの担当分野における活動報告として、本学を希望する生徒についての情報交換と活動の進捗状況の確認を行った。

各分野とその重点化活動は次の通りである。

#### 1 学生募集計画の立案・実施（高校訪問、入試懇談会など）

高校訪問はエリア別担当者を決め、進路指導教員と親密になることに重きを置いた。同時に、訪問先出身学生の本学における成績、受講態度及び生活態度など細部にわたる情報を高校側に提供し、大学における充実した個別指導を訴えた。高校訪問先としては、北海道新幹線の開通により札幌より本県の方が近くなった道南エリアの高校や、本学への志願者が続いている沖縄県の高校を新たなに訪問した。

#### 2 3学部学生募集

連携校から本学希望者を増やすため、経営学部では青森商業に対する簿記の出前授業を継続し、ソフトウェア情報学部や社会学部も積極的に連携校以外の高校も含めて出前授業を実施した。授業には本学学生を同伴する機会が多く、大学生と高校生の間で交流が生じ、本学を志望する動機づけとなった。同様に社会学部では青森中央高校で出前授業を実施した。そのほか、青森北高や青森西高、十和田西高などへ積極的に訪問した。

#### 3 薬学部学生募集

薬学部特別奨学制度を活用して学力の高い学生を獲得するため、青森県を含む北東北3県と道南地区で積極的な高校訪問を行った。訪問時には薬学部独自のパンフレットも携行し、教育の充実に努めていることを説明した。また高校生の家族の目に触れるよう薬局向けのカレンダーを作成するなど、薬剤師不足への貢献と卒業生の活躍ぶりを紹介する機会を増やした。

#### 4 スポーツ・文芸特待生募集

従来どおり、部活の監督及び顧問は、スポーツ特待としてふさわしい人材の発掘のため、積極的に活動した。また部活紹介のための冊子を作成した。

## 5. 青森山田高校募集

各学部、青森山田高校からの入学生を昨年より倍増させるため、出張講義を実施した。特にソフトウェア情報学部では、青森山田高校へ「総合的な学習の時間」などを使って、情報処理科 2, 3 年生向けに出前授業（グループ学習や体験授業）を毎週実施し、連携強化を図った。

## 6. 留学生募集

日本語学校へ積極的に学生募集活動を実施した。

## 7. 編入学・社会人学生募集

特に薬学部において、社会人学生の募集に努力した。

## 8. 広報（学生募集）

大学の教育活動、部活動及び社会貢献活動のそれぞれについて、マスコミに取り上げられる機会を増やした。

## 9. オープンキャンパス

在校生のサポーターを増員し、学生目線で高校生が喜んでもらえる企画を提案させ、実践に移した。

上記の活動の結果、薬学部以外で各学部の定員を上回る 320 名の入学者を数えた。特に青森山田高校からのスポーツ特待を含めた入学者が 74 名と平成 28 年度の 38 名に比べほぼ倍増したのに加え、青森山田高校以外のスポーツ・文芸特待生も増加し、3 学部とも定員を上回る結果となった。これは、ソフトウェア情報学部が週に 2 度、青森山田高校で出前授業を実施し、高校生からの信頼を獲得したことや、部活動の部長・顧問が積極的に選手の発掘を行ったためと考えられる。また、新体操部がリオデジャネイロオリンピック閉会式のパフォーマンスで世界を驚かせたことや、日本初の忍者部の多様な活動がマスコミの注目を浴びたことが全般的な大学イメージアップの後押しをした。

今後はスポーツ特待生のなかで、特に多い A 特待生の比率を下げ、全体の特待比率も落とすことで、より経営の健全化を目指す。また薬学部では、青森新都市病院に設置された脳と健康科学研究センターを活用して、青森県人の健康増進に果たす薬学部の役割を発信し、イメージアップを実現していく。

## (2) 教育内容の向上目標

学長主導の教学改革タスクフォースと教務委員会が連携して、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに沿って、平成 28 年度カリキュラムを編成し、「青森大学基礎スタンダード」及び各学部の専門科目の教育内容の向上を図った。まず、教務委員会において「学生が何を学び身に付けるか」という視点に立って、「シラバス作成要領」の記載方法を改善し、学生の到達目標、授業方法、授業計画及び授業時間外の学習や成績評価の基準等について明確に示すようにした。次に、学生主体の学修を促進して、教育効果を高めるために、FD 委員会が中心となって、教職員の学外 FD 研修を奨励するとともに、学期ごとの全学的授業相互参観を実施した。これらの活動により、学内における授業方法の改善につながる仕組みが定着してきており、授業のアクティブ・ラーニング化が加速した。平成 28 年度に、学生が納得できる就職を実現できることを目的に新設した、「キャリア

特別実習」は履修者が多数となり、学内における役割を担うことができた。キャリアデザインや就職活動実践演習は、学外の有力な講師を招き、より実践的な内容に改善した。また、現在行われている各種資格・免許の取得に関する教育についても継続して取り組んでおり、特に、公務員志望者のための公務員講座は1年から3年まで受講できるように改善した。

また、科学研究費補助金などの獲得に努め、付属総合研究所の紀要を継続発行するなど、教員の研究活動の充実、活性化を図った。

平成28年12月に、全学及び各学部の卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針及び入学者受入れの方針を、全学的な議論に基づき、新たに制定した。これら3つの方針は、平成29年度から実施される。

### (3) 教職員研修計画

年2回の教職員研修会(学内)では、本学取り組むべき課題について研修を行うこととしており、平成28年度は、9月に「青森大学の改革の成果を検証し、改革を継続し、発展させるために」をテーマに、文部科学省大臣官房審議官松尾泰樹氏の基調講演を含む研修を行い、教職員全てが、改革の成果の検証に基づく将来への展望を共有し、これら取り組むべき手立てを自覚し、協力して、青森大学の一層の魅力の向上を図っていくための方策について考える機会となった。12月には、「青森大学のブランド力の向上—研究活動の推進を中心に—」をテーマに、研修を行い、研究活動に焦点を当て、本学が大学として目指す研究の方向性について共通の理解を深め、研究活動の成果を生かし、青森大学の魅力を高め、ブランド力の向上を図るための方策について考える機会となる研修を行った。

事務職員については、教職協働の体制を実現するため、教員と職員とが目標を共有しつつ協働して業務を遂行するために、事務職員の意識改革に取り組み、事務職員の能力や資質を高め、活かすための研修や協力体制の強化を図った。また、日本私立大学協会等で開催される研修会など、事務職員として能力を高めるために外部研修会に積極的に参加させ、自己研鑽に励む機会を増やすようにした。

## Ⅲ. 青森山田高等学校全日制

### 1 平成28年度の基本構想

#### (1) 教育理念や使命

中高一貫教育の推進を基に校訓(誠実、勤勉、純潔、明朗)の実現に努力し、社会の発展に寄与すべく健全な心身の発達を図るとともに実践力に富む個性豊かな人格の育成、および品性の陶冶を中心に教師と生徒の人的交流を図れるべく努力する。そのために4つの重点目標を掲げる。

- 1) 学力の向上をはかり、個別指導に重点を置く
- 2) 生活態度を厳正にし、かつ人間味のある教師と生徒の交流を図る
- 3) クラブ活動、部活動を通して、青年期の精神生活の確立を会得させる
- 4) 生徒会活動に於いて社会性を持たせ、人的尊重の精神を養う

## (2) 組織改革計画

### 1) 管理者として

- ・基本姿勢、使命感と責任感

「教育者としての使命感」をベースに持ち、学校に期待される目的・目標を達成する「学校経営者」としてのリーダーシップを発揮。

- ・学校ビジョン構築

学校教育目標の実現に向け、学校の中期・短期（年度）双方の視点から、取り組むべき重点事項を明確にし、実現のシナリオを描く。

- ・環境づくり

学校教育目標の実現に向け、学校内外の「人的資源」「物的資源」「資金的資源」「情動的資源」「ネットワーク資源」を最も効果的に活かすため、学校の組織づくりや環境整備を行う。

- ・人材育成

学校の各種活動を通じて、自らと教職員の能力を向上させ、人としての成長を促進させる。

- ・外部折衝

学校の各種活動を効果的・効率的に進めるため、学校外部に理解を求め、外部とのネットワークを構築する。

### 2) 教職員に望むこと

教育は人なり。学校教育の成否は教職員の資質能力にかかっている。したがって、教職員には専門的な知識を深め、指導力を高めてより工夫された教育活動を展開できるよう、日々自己研修に努める。

- ・大所高所から物事を考えられる教職員であれ（「木を見て森を見ず」ではダメ!）
- ・生徒の目線に立って観察する洞察力をもつ教職員であれ
- ・厳しくあり優しさのある教職員であれ（理解と迎合の区別）
- ・積極的な実践力とたくましい行動力を持つ、熱い信頼される教職員であれ

### 3) 基本的な経営の指針

- ・日常的な実践

3Cの精神 ①チャンス（chance）…… 好機到来と判断されたら

②チャレンジ（challenge）…… 果敢に挑戦するようにし

③チェンジ（change）……改善変革を大胆に図る

- ・職場のモラルの向上

どういう職場であれ、一番大切なことは「モラルの向上」である。それを支える大黒柱は、人間である。

- ・モラル向上のためには

①「今まではこうした」とか「去年まではこうだった」とかは禁句にして、「何を」「どう」やらなければならないかを明確にしていく。

②職場を構成する一人ひとりが次の4つのものを持ち合わせる努力をすること



が大事である。

活力・生命力 (Vitality)、 知識・技術 (Speciality)

独創・創造 (Originality)、 個性・持ち味 (Personality)

※「個性・持ち味 (Personality)」が職場のモラル向上と直結する。

③教育課程の一連の推進の中で「計画」・「実施」・「評価」とよく言われる。しかしこれに加えて大事なのが教育課程全体を見て、次年度には何をどう「改善」していくかということを確認していく必要がある。

#### 4) 教師の共通理解、共通指導

- ・生きがい、居がいのある、明日が待たれる学校  
まず、教職員間の関係が温かいものでなければならない。そのためには、例外を除いて情報を共有することを原則とする。
- ・授業の工夫  
時間の工夫、発問の工夫、問題解決的な学習の工夫に心がけ、授業のプロ・学級経営のプロ・生徒指導のプロとして活躍できる力量をつけられるよう日々教材研究に努める。

#### 5) 検討の方向

教育組織の見直し、そのあり方について引き続き検討する。

## 2 教学に関する計画

### (1) 志願者・入学者獲得の計画

中学校段階での進路指導は、「入れる高校から入りたい高校へ」の転換がなされてきた。しかし、残念ながら未だに輪切り状態が続いており、このことが学校の伝統、過去からの実績、学校への信頼・協力ということにつながっている。

子どもを「青森山田に預けて良かった!」と言われるよう一人でも多く、本校へ入学させる。出口の保障という点では、教職員一同、一枚岩になって共通理解、共通指導、共通行動のもと、進学においては 100%生徒本人及び、保護者の希望通りというわけにはいかないが、ほぼ希望通りに進学できた。特に現役ではなかったが、本校はじまって以来の“東京大学、文科Ⅲ類”の合格者を出せたことは、これからの本校特進コースのあり方に大きな希望を見出す一因となったことは言うまでもない。また、就職においては調理科を中心とし、就職率 100%、就職先も全員希望する企業へ就職できた。

#### ① 獲得の手立て

- ・各中学校における生徒対象学校説明会を、9月～11月の期間に、30校実施。
- ・校長等を対象とした県内3地区の学校説明会を9月に実施した。
- ・生徒・保護者対象の青森山田高校進路相談会を、11月～2月、5回実施した。
- ・推薦入試終了後、教職員で手分けをして市内20校で実施(2回)。
- ・A日程入学者選抜終了後、東青地区各中学校への本校教職員の個別訪問による募集活動を実施した。

- ・保護者への働きかけ、教員同士の情報交換および各中学校との密接な情報交換
- ・ホームページでの教育活動の配信は毎日更新して、常に新しい情報を配信した。  
これだけではないが、以上のようなことより平成 29 年度は、推薦試験で 259 名、  
A 日程選抜試験で 115 名、B 日程選抜試験で 11 名、合計 385 名の入学者となった。  
青森山田中学校の卒業生が 31 名だったことを考えれば、今回は学校一丸となり生徒募集に取り組んだことが成功したと思われる。

(2) 教育内容の向上目標

学習指導要領、社会のニーズ等に即したカリキュラムを作成し、各教科、分掌等の効果的運営を図る。

(3) 教職員研修計画

①目的

- ・基礎学力の定着と活気ある授業の推進に努め、担当教科のみならず、分掌、学年と密接に連携し生徒の確かな学力向上を図る。
- ・日頃から生徒の学力状況を把握し、個に応じた個を生かす授業、生徒の学習意欲を引き出す授業を目指す。

②研修内容

校内研修 1)授業研究…… 研究発表、授業公開

2)職員研修…… 青森大学社会学部教授 船木 昭夫教授を講師に招いて「障がいを持つ生徒のより良い対応の仕方」の演目で12月21日(水)に実施した。

校外研修 1)総合学校教育センター等の研修

2)青森県高等学校教育研究会

3)私学研修……青森県私学研修会、全国私学研修会

4)先進校視察……学力向上の参考となる学校視察

5)分掌・教科等の諸研修会……全国・東北・県大会等

6)その他……自己の専門性を高め、教育活動の充実を図る  
有職者による教職員への講話の実施した。

## IV. 青森山田高等学校 通信制課程

### 【青森校】

#### 1. 平成28年度の基本構想

##### (1) 教育理念や使命

- ・全日制高校と異なり不登校や学習障害・心的障害や教育相談センターに通う等、心に何らかの負荷を抱えた生徒が多数を占めるため、親切丁寧でかつ親身の指導が実現している。

(2) 組織改革計画

- ・全生徒（167名）の半数（83名）は女子である。
- ・女子生徒に対応する女子教員の採用を引き続き検討する。

2. 教学に関する計画

(1) 志願者・入学者獲得の計画

- ・県内唯一の「学年制授業」「全日制と同じ文面の卒業証書」を明確化。
- ・青森大学キャンパスの施設設備を活用した利便性のある授業展開。
- ・関連校（青森大学、自動車専攻科、ヘアアーティスト専門学校）へは推薦入学制度、減額制度を活用して、青森大学には26年から28年において青森校から3年連続6名の入学者、自動車専攻科においても3年連続2名入学者と進学的には、まだまだ少ないが志願者獲得に大いに貢献。
- ・HPにおいて全国で活躍している卒業生の状況活動報告を実施した。
- ・途中退学者へ編入学のアピールを図り、ネットワークを構築させた。

(2) 教育内容の向上目標

- ・今年度も「トップ講座」（理事長講話、校長講話）や大学教員による授業等トップレベルの授業展開し、学習意識向上・生徒のスキル向上に展開した。
- ・通信制共通の教務規程を作成し、充実した教育内容で指導した。
- ・教員・講師の教員・講師の充実した授業展開・日々教材研究に努める。

(3) 教職員研修計画

- 年2回（前期・後期）の校内研修を実施し、教職員の共通理解、共通指導を推進
- ・人間的交流が図れるべき努力する。そのためには、例外を除いて情報を共有することを原則とする。

【札幌校】

1. 平成28年度の基本構想

(1) 教育理念や使命

- ・全日制高校と異なり不登校や学習障害・心的障害や教育相談センターに通う等、心に何らかの負荷を抱えた生徒が多数を占めるため、親切丁寧でかつ親身の指導が実現している。

(2) 組織改革計画

- 管理職（教頭もしくは主幹教諭）を引き続き検討する。

2. 教学に関する計画

(1) 志願者・入学者獲得の計画

- 札幌市内及び近郊の中学校、教育相談センターを訪問して新入生の募集に努める。

全日制課程の高等学校からの転入学を積極的に受け入れているため、札幌校のウィークポイントに繋がっている。

(2) 教育内容の向上目標

教育課程に基づいた通信課程の充実を図り、通信制課程共通の教務規程を作成し、充実した教育内容で指導。教員・講師の充実した授業展開・日々教材研究に努める。

(3) 教職員研修計画

年2回（前期・後期）の校内研修を実施し、教職員の共通理解、共通指導を推進・人間的交流が図れるべき努力する。そのためには、青森校とともに情報を共有することを原則とする

## V. 青森山田中学校

### 1 平成28年度の基本構想

(1) 基本理念や使命

- ・中高一貫教育の推進を基に校訓「誠実、勤勉、純潔、明朗」の実現に努力し、生徒一人ひとりの持つ「無限の可能性」を引き出し、伸ばし、育てることを目標とし実践してきた。
- ・基本的には全員が青森山田高等学校に進むことから、高校の進路実績の向上に寄与した。例外として他校への進学も認めるため、その対応も適切に処理した。
- ・具体的な重点目標として以下の点を実践してきた。
  - ① 平成28年度入学生より、中高一貫校としての6年間を見通したカリキュラムを実施したため、特進コースの中高6学年を高等学校の校舎に集め、6年間の計画的・継続的な教育指導を展開し、先取学習の充実を図った。
  - ② 学力向上のための個別指導を積極的に実施し、各種検定の多数合格を目指した。
  - ③ 学校生活において、人間関係の在り方を学び、豊かな心を育ててきた。
  - ④ 中学生としての生活態度を厳正にさせ、教師と生徒との信頼関係を築いた。
  - ⑤ 地域社会との連携を積極的に図った。

(2) 組織改革計画

- ・義務教育としての領域内で、尚且つ中高一貫教育校として他校では真似できない指導体制を実施するため、中高教員の流動的な教育組織の編成を行い、また教職員の作業意識を高めるための内部改革を実行した。

### 2 教学に関する計画

(1) 志願者・入学者獲得の計画

- ・平成29年度生徒募集においては、定員の2.2倍の応募があり、特進・普通の両

コースにより多くの生徒を集めることができた。

- ・平成30年度はさらに特進コースの生徒募集に、これまで以上に全員が募集担当者であるという意識を持って当たることが大切である。
- ・小学校5、6年生を対象にオープンスクールなどの体験勉強会を随時行い、勉強習慣をもった優秀な児童の確保を積極的に行った。
- ・中学校の大きな宣伝となるのは、実際に入学した生徒や保護者からの口コミであることから、いま在籍している生徒一人ひとりに目を向け、きめ細やかな指導を積極的に実施した。
- ・ホームページの更新を行事毎に実施し、学校生活の様子を積極的に配信した。

## (2) 教育内容の向上目標

- ・中高一貫校としてのメリットを生かし中学校の段階から大学入試を見据えた効率的カリキュラムを実施した。
- ・スポーツコースにあっては、本校でしかできない特色ある教育活動を実践した。
- ・グローバルな人材育成のためのさまざまな体験学習をとおして、コミュニケーション能力を育成し、特色ある教育を実践した。
- ・部活動勉強会を実施し、高いレベルでの文武両道の確立を目指した。

## (3) 教職員研修計画

- ・学力向上のためには、教員の資質向上は不可欠であるので、授業の見直し、指導方法の工夫等の自己研鑽に日々努めた。
- ・研修会への積極的参加を推進したが、教職員多忙化の影響もあり、時間的には厳しい状況であったので、青森市中教研、青森県私学研修会等にも参加できなかった。
- ・県外の先進的な学校を視察する計画はあるが、実質的に難しい現状もある。
- ・有識者、教育実習生による講話を積極的に実施した。

## VI. 自動車専攻科

### 1. 平成28年度の基本構想

#### (1) 教育理念や使命

ア. 資格（二級自動車整備士）取得確保を最大の目標とした教育。

(ア) 現在は、整備士不足により国土交通省運輸局あげての人材育成を掲げており、それに伴い地元業界の整備士需要が多く、その育成は地域の活性化の原動力となる。

(イ) 女子整備士の養成も業界のニーズとして求められており、女子学生入学の倍増を推進する。

#### 【結果】

◆資格取得については全員合格がかなわなかったが、就職は1名の農機具関係以外

は全員ディーラーに整備士として採用された。

◆平成29年度は女子学生4名の入学が決定している。

## (2) 組織改革計画

女子学生入学に伴う女子教員の指導育成の強化。

### 【結果】

◆実習授業が始まると、教員全員授業を持っているため、職員室が空になるので臨時事務職員を採用し緩和を図った。先生方の授業時間数が多いため（持ち時間が最低の教員でも24/30時間である）、教材研究、生徒指導、教育及び進路相談、HR・業務作業などの確保に支障をきたしている。また、教員が休暇（病気・有休）を取ると現状では厳しい現状である。1名の教員の補充が不可欠である。

## 2. 教学に関する計画

### (1) 志願者・入学者獲得の計画

近年の若年層の自動車への関心度の希薄は否めないが、昨年度以上の入学者数の確保が必須である。

本校の知名度は昨年でもまだかなり低い、女子学生の入学は各高等学校にかなり普及した。昨年度からの奨学制度の確立、オープンキャンパス実施今年度からの制服廃止により本校への興味、理解度は深まりイメージアップにつながっている。

来年度もこれらをベースに、自動車科を有する高校（青森山田、弘前東）や実業高校を中心に訪問説明会を実施し獲得を図る。並行してHPなどを通して一般社会人にも資格取得の利便さ・整備士需要の多さをアピールし獲得したい。

また、今年度は、留学生も入学する。引き続き当学園国際教育センターと連携を図り、留学生の増員も進めていく。

### 【結果】

◆高校生対象職業体験フェアでの説明会（2回・青森市、弘前市）

◆訪問説明会（鶴田高校）

◆オープンキャンパスの実施（3回）

《参加者》 1回目＝33名、2回目＝16名、3回目＝22名

（入学者推移）

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
入学者数	18名 (女子0)	18名 (女子0)	21名 (女子0)	33名 (女子3)	32名 (女子4)

### (2) 教育内容の向上目標

教育理念に沿った資格（二級自動車整備士）全員取得の構築を図るため、早期の指導展開を進める。また、在学中に取得できる資格（中古車査定士、損害保

険募集人資格等)に多くチャレンジさせる。

各ディーラーにおける自動車コンピュータ化により、実習車や教材・機器を現場社会に対応できるようにしていくよう整備を進める。それに伴う、各ディーラーの技術講習会を積極的に導入する。

新入生から、週1単位の「教養」授業を設定した。理事長講話・校長講話・ディーラー講話・ビジネスマナー・マナー検定・電話対応講座・英会話等、入社後整備以外でも対応できる能力、マナーを習得させる授業を実施する。

#### 【結果】

- ◆資格取得のための早期指導は教員全員で当たり好結果をもたらした。
- ◆学生は他の資格も数多く取得し、専攻科ならではの特性を生かした。
- ◆ディーラー技術講習会を8回実施し、学生・教員共に新技術力に研鑽した。
- ◆昨年からは開始した「教養」の授業は、学生にも好評であり、ディーラーからも評判が良い。
- ◆企業合同説明会を本校にて開催(2月9日)＝21社参加  
(ディーラー技術講習会)

回	月 日	講習会名
第1回	5月17日	スズキフレッシュマンセミナー
第2回	5月27日	マツダ春の技術セミナー
第3回	9月14日	マツダ合同試乗・技術講習会
第4回	9月24日	三菱技術講習会
第5回	10月13日	日産EV技術講習会
第6回	10月27日	スズキ技術講習会
第7回	11月 7日	ダイハツ技術講習会
第8回	2月17日	いすゞ技術講習会

### (3) 教職員研修計画

年2回(夏・冬)の校内研修を実施し、教職員の共通理解を図り生徒募集・教材研究・学校運営に積極的に参加する体制を確立する。

#### 【結果】

予定通りの研修会を実施し(7月22日・12月21日)、問題解決を図り、来年度の展望や体制も確認した。

#### ■今後の方向性

- 1 整備士試験全員合格させるための計画的指導を推進する。
- 2 将来的なことも含めた教員採用の検討。
- 3 平成28年度(32名)以上の入学者の確保及び留学生の取り込みを推進する。
- 4 教材機器の入れ替えを計画的(3年～5年)に推進する。
- 5 研修会等を通し、教職員のより一層の資質向上を図る。

## Ⅶ. ヘアーアーティスト

### 1. 平成 28 年度の基本構想

#### (1) 教育理念や使命

- ・本校の教育理念や使命達成に向け、社会人としての教養と専門性を生かした個性豊かな人格の醸成と、社会に貢献できる職業人の育成を目指し、教職員の共通理解を図り学生の指導に取り組む努力をした。

#### (2) 組織改革計画

- ・計画に基づき改革を進め分掌業務の見直しを行い、業務分担の明確化と作業内容の均等化を図り職員間の意思疎通も円滑になった。
- ・学校教育の主体は、人（学生）であり、「教」え「育」てるために、教職員は常に、専門知識、技能を深め指導力向上のために、自己研修に努める。

### 2. 教学に関する計画

#### (1) 志願者・入学者獲得の計画

- ・計画を確実に実施するよう努力した。
- ・会場ガイダンスは弘前市内開催のガイダンスを重点に参加した。
- ・高校進学ガイダンスは、中弘南、西北五地区を中心に参加した。
- ・高校訪問は、重点地区(中弘南黒・西北五・東青)は4回～5回訪問を行い本校の教育内容の理解に努めた。
- ・イチコイユニット事業は、2年目を迎え、サロン7社（弘前5社、青森2社）の協力で就職セミナーや大会出場選手の技術指導、シャンプー授業等実習に参加して貰い効果が上がった。また、3月27日第2回恋sコレクションを開催した。(参加者38名) 今後も業界との連携を密にして理美容の魅力発信に努めて行く。
- ・体験入学は2回の実施。参加者1回目62名、2回目60名。
- ・ヘアモードショーは250名以上の参加者があり盛況であった。今年度も早期に企画に取り掛かり、斬新なショーに仕上げていきたい。
- ・情報媒体からの資料請求は500件を超えている。本校にとっては重要なツールであり、今後も学生募集、広報活動には情報媒体を積極的に活用したい。
- ・学園祭・おもてなしサロンは、前年と同様の来場者があり(約55人)近隣住民に対しての広報の効果がでてきた。
- ・校外イベントは、ファッション甲子園、ひろさきりんごハロウィン、ヒロコレ等積極的に参加した。
- ・ボランティア活動は、サンタハウス、弘前キッズハローワーク等に参加し好評を得た。今後も学校評価向上のために積極的に取り組んで行く。
- ・理容科入学者増に向けては、今後も業界と連携し、継続して取り組む。



## (2) 教育内容の向上目標

- ・国家試験、各種認定試験への取り組みの強化と、基礎学力、基本技術の定着に努め、実習・座学、常勤・非常勤教員の連携を図り学生の学力、技術向上を目指した。
- ・SBS 資格認定試験は 100%合格。
  - 着付け 3 級～32 名合格 接遇・マナー 3 級～32 名合格
  - メイク 2 級～32 名合格 ネイル 2 級～22 名合格
  - ネイル 3 級～11 名合格
- ・AFT 色彩検定 2 級～3 名合格 3 級～8 名合格
- ・国家試験は、実技 100%だが筆記試験で 3 名の不合格があり、学習に対する姿勢の確立など対策強化を図る必要がある。28 年度は最重要課題として取り組む。
- ・資格取得に向けての意識が定着してきた。

## (3) 教職員研修計画

- ・職員研修-----東北地区教職員研修会～9 月 25 日・26 日（ホテル青森）
- ・ユニットサロンとの連携による技術研修～11 月 28 日(月)、大峰先生によるドライカット講習。
- ・外部講師による集中講義授業の受講～メイク 8 月、ネイ 10 月、11 月
- ・イチコ恋ユニットサロンオーナーとのディスカッションの実施。
  - 5 月 23 日～実践型シャンプー授業の方向性。
  - 7 月 14 日～キャリア教育と理美容に対する社会的評価の向上。
  - 10 月 19 日～第 2 回恋ズコレクション(29 年 3 月 27 日開催)に向けて。
  - 1 月 11 日～第 2 回恋ズコレクション役割分担と放課後セミナーの実施予定についての協議。

## VIII. 呉竹幼稚園

### 1 平成 28 年度の基本構想

#### (1) 教育理念や使命

- ・あたま・こころ・からだ  
バランスのとれた教育により、教育目標を達成することができた。
- ・サントレ、ECC はゲーム感覚で楽しみながら、自然に漢字や言葉、外国語に親しんでいる。
- ・スキー、スケートなど、各小学校により選択する種目は異なるが、どちらも実施していることで、市内の小学校の冬季体育実技につなげることができている。

#### (2) 組織改革計画

- ・28 年度より施設型幼稚園（定員区分 36～45 人の枠）として運営。定員区分の変更などはなく運営することができた。

- ・28年度途中より満3歳児入園は8人 → 29年度入園につながった。
- ・予算執行については、小口の取り扱いなど速やかに処理することができた。

## 2 教学に関する計画

### (1) 志願者・入園者数獲得の計画

- ・スクールバスは、「れんらくアプリ」の導入により、広域化に対応することができた。
- ・28年度満3歳児途中入園8名のうち4名、29年度入園8名のうち3名が未就園児教室参加者より入園。更なる教室の内容充実を図る。
- ・教職員全体で、未就園児教室や見学者など、心地よい対応をするよう心掛けてきた。その結果、入園を決めるときの相談など、保護者や園児に寄り添うことができ、入園児の確保につながった。

### (2) 教育内容の向上目標

- ・冬場の環境整備は、積雪期前に対応（ホール東側屋根の融雪）することにより、近隣との問題発生を未然に防ぐことができた。
- ・園庭の樹木の剪定、伐採により、害虫や落ち葉の問題を軽減することができた。園庭も広くなった上、芝生を敷いたことで、園児が思いきり遊ぶのに適切な環境作りができた。

### (3) 教員研修計画

- ・県教委主催の研修、私幼連主催の研修の他、積極的に外部の研修会に参加し、資質向上に努めた。
- ・サントレ研修会に参加し、改めて自己の指導を振り返り充実したものとなった。

## IX. 螢ヶ丘幼稚園

### 1. 平成28年度の基本構想

- 職員会議（月1回）、打ち合わせ（毎日）保護者役員会（年10回）を行い、基本構想「教育方針、教育目標、行事計画、保護者対応について検討し、園の運営全般について共通理解を図る。保護者の意見や要望を聴取して意思疎通を図り、信頼関係を築く」ように努めた。

### 2. 教授に関する計画

#### ① 継続的な募集活動

メディアの活用やホームページ更新により、認知度は上がってきている。また、未就園児教室には、毎回3～5組が参加している。特に体操教室を取り入れた場合の参加者が多く、関心の高さがうかがわれる。さらに、未就園児教室に合わせた保護者主催のママカフェの開催により、在園児の保護者の交流も図られた。そ

の結果、保護者の口コミや誘い掛けにより28年度入園者5名（満3歳を含むと9名）であった。

## ②教育内容の向上目標

子ども主体の活動がなされるような展開に努めると共に、教員の自己研鑽に努めた。

園外研修・・・平成28年度幼稚園教育課程青森県研究協議会

私立幼稚園連合会教員研修会

青森市私立幼稚園協会教員研修会（夏季・冬季）

園内研修・・・研修会への参加報告

指導計画の見直し

保育内容、指導について行事についての話し合い

特別な支援を要する子どもについての対応、関係機関との連携

## 3. 人事に関する計画

園長が専任であったが、9月より新職員が補充されたことにより、教頭が各学級の補助にあたることができ、保育内容の充実が図られた。また、事務職員の補充により、総務関係も滞りなく進めることができた。

## 4. 施設等の改善・改革

施設の改善が図られたことにより、保育環境が充実し、保護者からも高い評価を受けている。

改善内容・・・園庭に整備（危険樹木の伐採、芝の種まき）

トイレ改修

照明器具の増設（ホール、廊下）

屋根の補修

園バスのラッピング

## 5. 今後の課題

- ・入園児の増員
- ・長時間保育の充実（低年齢児の受け入れ）
- ・雪害対策

## X. 北園幼稚園

### 1. 平成28年度の基本構想

#### (1) 教育理念や使命

ア. 青森山田学園校則「誠実・勤勉・純潔・明朗」のもと、幼稚園教育要領の内容を踏まえたうえで、北園幼稚園の教育目標が達成されるよう、保育の計画や教育環境の充実を図る。

イ. 北園幼稚園に通う一人ひとりの園児の育ちやテンポに合わせた丁寧な保育を

- 行い子どもの気持ちや要求に応え、子どもとの絶対的な「信頼関係」を築く。
- ウ、北園幼稚園の教育方針や園全体で打ち出しているものなどを含め、保護者との「信頼関係」を築く。

【実績】

- ア、「子どもの興味関心を大事にし、主体的な活動ができる子どもを育成する」「基本的な生活習慣を確立する」「多様な体験を通して、豊かな感性を育てる」ことを教育目標に掲げ、指導計画を立案し、教育環境を整えて取り組んできたことで、子どもたちの中に教育目標が浸透している。
- イ、教職員が園児一人ひとりの発達や成長過程を把握し、共通理解を図りながら保育を実践してきたところ、個性のある子ども達が育っている。
- ウ、保護者との連絡、意見交換などを通して、家庭との連携を密にし、信頼関係を築いている。

(2) 組織改革計画

- ◎28年度から施設型幼稚園として運営（定員区分0～15人）

【実績】

- ア、年長児9名、年中児3名、計12名であった。

2. 教学に関する計画

(1) 志願者・入学者獲得の計画

- ・未就園児教室の充実
- ・子育て支援事業による未満児の受け入れ
- ・在園児保護者を通じて入園者を募る
- ・高校・大学等との連携を図り、山田学園の一員であることを周知していく
- ・広報活動の多様化（メディア活用、チラシなど）
- ・ホームページ、フェイスブックの公開と情報の頻繁な入れ替え

【実績】

- ア、週に1回の未就園児教室と月に1回の未就園児教室を市内の2歳児を対象に行った。参加者は徐々に増え、最終的に7名ほどであった。しかし、在園児数が少ないことに不安を感じ、入園まで結びついたのは3名にとどまった。
- イ、ホームページ、フェイスブックの閲覧者は多いので、さらに頻繁な更新等、充実させていく必要がある。

(2) 教育内容の向上目標

- ・集団生活を通して協力し助け合う喜び、他の人に対する思いやりの心を持つ子どもを育む

【実績】

- ア、年長児9名、年中児3名、計12名という少人数ではあるが、縦割り保育を取り入れ、クラスの枠を超えて子どもたちがかわりを持つことができるような

教育環境の設定を行ってきたことで、主体的な行動ができる子どもたちが育っている。

イ、動物との触れ合いや野菜の栽培など自然との触れ合いを通して、子どもたちの中に思いやりの心が育っている。

### (3) 教職員研修計画

- ・ 県教育委員会主催研修会
- ・ 私立幼稚園連合会主催研修会
- ・ 十和田市私立幼稚園協会主催研修会
- ・ 十和田市教育委員会主催幼保小連携研修会

#### 【実績】

ア、青森県教育委員会主催研修会	…	1回（8月）
青森県私立幼稚園連合会主催研修会	…	2回（8月・9月）
十和田市私立幼稚園協会主催研修会	…	1回（8月）
十和田市教育委員会主催幼保小連携研修会	…	1回（9月・1月）
学内幼稚園保育園教員研修会	…	1回（9月）